

## stay hot,stay creative

### 3年間にわたる道後温泉地区の新たな活性化事業 「みんなの道後温泉 活性化プロジェクト」概要について

道後温泉は、日本最古といわれる温泉で、そのシンボル道後温泉本館は、現在その貴重な宝を未来に受け継ぐため、2024年末の完了を目指し営業しながらの保存修理工事を行っています。道後温泉では、2014年の「道後オンセナート2014」を皮切りに、さまざまなまちづくりアート事業に取り組んできました。2021年度から2023年度までの3年間、新たな活性化事業「みんなの道後温泉 活性化プロジェクト」を実施します。コンセプトは「stay hot,stay creative」。道後温泉では、数多くの芸術家が創造力を羽ばたかせ、熱を放出してきました。2024年の本館改築130周年に向け、いまふたたび、〔アート×人×温泉〕の熱量で、道後温泉を、日本を、世界を温めたいとの想いを込めています。

主催は道後温泉旅館協同組合、道後商店街振興組合、道後温泉誇れるまちづくり推進協議会などの地元団体、愛媛大学、金融機関、松山市などで構成される「未来へつなぐ道後まちづくり実行委員会(委員長：羽藤英二 東京大学大学院教授)」。地域資源を磨き上げ、新たな道後ブランドを創出し、多角的・独創的な事業を展開することで、「自律的好循環による、100年先まで輝き続ける持続可能なまちづくり」を目指します。

#### みんなの道後温泉 活性化プロジェクト

- 事業期間：2021年5月～2024年3月31日
- 展開場所：道後温泉エリア全体

■コンセプト： stay hot,stay creative

表記すべて小文字 stay [半角アキ] hot, [カンマ] stay [半角アキ] creative

■主 催：未来へつなぐ道後まちづくり実行委員会

■企画プロデュース：スパイラル/株式会社ワコールアートセンター

#### 3カ年スケジュール

新型コロナウイルス感染症は道後温泉地区の観光産業にも深刻なダメージを与えています。本プロジェクトでは、こうした現状を踏まえつつ、コロナ禍からの本格的な回復タイミングを2022年と想定し、3年間のグランドスケジュールを設定。具体的には、2021年度は地元集客と関係人口の構築に取り組み、来るべき回復期の力を蓄えるとともに、2022年度には「道後オンセナート2022」を、2023年度には「国際クラフトフェア」を開催することで、観光人口、インバウンドの獲得を目指します。

2021年度  
地熱づくり  
地元集客/関係人口の構築

2022年度  
道後オンセナート2022  
観光人口の拡大

2023年度  
国際クラフトフェア(仮称)  
インバウンド獲得

#### シンボルデザイン

##### 「ギヤマンレッド」を基本に、多彩な形で展開

グラフィックデザイナー・小林一毅氏によるシンボルデザイン。「道後の地熱は、人の熱」というデザインコンセプトに沿い、道後温泉地区に関わる「人」をユーモラスに描いた泡のように変幻自在な顔が、ロゴ、ポスター、看板、マップなどで多彩に展開されます。基本カラーは道後温泉本館の神の湯の塔屋にあたる振鷲閣の赤い色ガラスを基調とした「ギヤマンレッド」で、使用シーンにより様々な形に変化し、まちを彩ります。

#### 小林 一毅 (こばやし いっき)

グラフィックデザイナー。  
1992年滋賀県彦根市生まれ。2015年多摩美術大学グラフィックデザイン学科卒業。資生堂クリエイティブ本部を経て2019年に独立。東京TDC賞、JAGDA新人賞、日本パッケージデザイン大賞銀賞、Pentawards Silver受賞。



シンボルデザインの基本ロゴ

## 2021年度は「地熱づくり」をコンセプトに事業を展開

- 後期工事に使用する本館の素屋根テント膜には、地元愛媛県在住の世界的芸術家、大竹伸朗氏の作品をインストール。2024年の工事完了に向けて力を蓄えている本館を包み込む巨大なインスタレーション作品が、工事期間中の道後温泉地区のシンボルとなり、その魅力を世界に発信します。
- 飛鳥乃湯泉の中庭には、これまでの道後アート事業で人気を博してきた蜷川実花氏の作品を展開。本館が静的なインスタレーションであることに対し、中庭は動的な空間となります。来年度からは地元の若者を中心に大道芸などの多様な活動を展開することも計画しています。これからの道後の活力を生み出す舞台。それが「ハダカヒロバ」です。
- 新たな本館の入口となる又新殿・霊の湯棟の目の前、本館東側広場の東屋「振鷺亭」には、松山市在住のクリエイター、隅川雄二氏が手がける道後温泉の歴史を題材とした作品を展開。だまし絵の技法を駆使する隅川氏の作品を通し、道後温泉地区を訪れる人々に道後の歴史に触れていただくことを企図しています。
- 来年度からの本格的集客事業（オンセアート）に効果的に接続するために、地域の活力を形成する関係人口構築事業、新たな観光商品の開発に向けた実証実験などを実施します。

### 道後温泉本館 素屋根テント膜

## 2021年12月下旬、道後温泉本館 素屋根に大竹伸朗の作品が登場!!

【作品設置期間】 2021年12月下旬~2024年12月(予定)

※工事の進捗により、変更します。

【作品設置場所】 道後温泉本館

【アーティスト】 大竹伸朗

これまで手塚治虫「火の鳥」のラッピングアートが施されていた道後温泉本館の素屋根テント膜に、愛媛県宇和島市を拠点に創作活動を行う世界的芸術家・大竹伸朗氏の作品がプリントされ、2021年の12月下旬から新たに展開。道後温泉地区のシンボルとなります。



Photo by shoko

### 大竹伸朗

(おたけしんろう)

1955年東京生まれ。1980年代初頭より国内外で作品発表を開始。1988年に制作拠点を愛媛県宇和島市に移し、絵画を中心に音や写真、映像を取り込んだ立体作品、エッセイ・絵本など多彩な作品を展開。2019年にはパフィオ宇和島、生涯学習センター・ホールの織帳「のぞき岩」が完成。「東京2020公式アートポスター」の制作アーティストに選出。2022年3月ホノルルトリエナーレに参加予定。

### 大竹伸朗氏コメント

愛媛県宇和島市に制作拠点を移して30年以上が過ぎました。こちらに越してきた当時まだ子供達が小さかった頃は家族でたびたび道後を訪れ、今はなき旅館め多くの宿に泊まった懐かしい思い出があります。今回、道後のプロジェクトのお話をいただき、若い世代の人たちが熱意をもって声をかけてくれたことがとても嬉しく、またありがたい気持ちです。お話を聞き、早速、道後温泉本館を覆う火の鳥の大テントを見に行きました。これまで経験したことがないスケール感を前に、道後温泉本館という大変歴史ある特別な場所を手がけるという緊張感がひしひしと迫ってきましたが同時に是非挑戦してみたい気持ちが湧いてきました。多くの人に喜んでいただけるよう、全力で取り組みたいと思っています。



2009年 道後温泉「♥湯」(香川県・道後町)  
写真: 渡邊修



2019年「スペース・キッカー」  
(東京2020オリンピック公式アートポスター原画)  
©Shinro Ohnaka Courtesy of Take Ninagawa, Tokyo  
Photo by Kei Okano

## ● ハダカヒロバ

【展開期間】 2021年9月24日(金)~2024年2月29日(木) ※開催日を延期いたします。開催日が決定次第、公式サイトにてお知らせいたします。

【作品展開場所】 道後温泉別館 飛鳥乃湯泉中庭

【アーティスト】 蜷川実花

道後温泉別館 飛鳥乃湯泉の中庭に、こころもハダカになって道後温泉を楽しむ舞台「ハダカヒロバ」が登場します。2021年度は、写真家・映画監督の蜷川実花氏が作品を展示予定。蜷川氏の写真が広場を彩り、様々なイベントが行われるフリースペースとしても活用されます。



### 蜷川実花 (にながわみか)

写真家、映画監督。木村伊兵衛写真賞ほか数々受賞。映画『さくらん』(2007)、『ヘルタースケルター』(2012)、『Diner ダイナー』(2019)、『人間失格 太宰治と3人の女たち』(2019)監督。Netflixオリジナルドラマ『FOLLOWERS』が世界190カ国で配信中。映像作品も多く手がける。



道後温泉本館インスタレーション  
©mika ninagawa, Courtesy of Tomio Koyama Gallery/Dogo Onsenart 2018

## ● だまし絵・歴史絵巻

【設置期間】 ~~2021年9月24日(金)~~~2024年2月29日(木) ※開催日を延期いたします。開催日が決定次第、公式サイトにてお知らせいたします。

【作品設置場所】 振鷺亭（しんろてい）

【アーティスト】 隅川雄二

道後温泉本館の東側に建つ「振鷺亭」では、道後温泉の歴史絵巻をテーマに、松山市在住のアーティスト・隅川雄二氏による作品を展開。工事の情報発信がされるとともに、テクニカルイラストレーターとして活躍する隅川氏による、だまし絵の技法を活用したイラスト作品はユニークなフォトブースとしても楽しめます。



隅川雄二（すみかわゆうじ）

up to you主宰、イメージビルダー。イメージを二次元化し、作り上げるテクニカルイラストレーター。



現代版 道後温泉絵巻

## ● クリエイティブステイ公募プログラム

【実施日程】 公募期間：2021年8月1日(日)~9月30日(木)

実施期間：2021年11月8日(月)~2022年1月31日(月)

公募で選ばれたアート、デザイン、映像、パフォーマンス、文芸、食など文化・芸術分野の約50名のクリエイターが道後温泉地区に1週間滞在し、地域の歴史・文化・人・風景などに触れながら創作・交流活動を行います。滞在の最後には、“道後温泉”または“交流した人”に向けたビデオメッセージを作成し、後日YouTubeで公開。この中から今後、道後温泉での文化芸術活動を行う人材が発掘されるなど、地域の活力を形成する関係人口の構築につなげたり、多様な視点・感性を通して道後温泉のPR・観光振興にも役立てます。

## ● 関係人口サミット

【実施日程】 ~~2021年10月3日(日)~~ ※開催日を延期いたします。開催日が決定次第、公式サイトにてお知らせいたします。

関係人口の可能性と課題を巡り最先端の議論が交わされる場として、全国からキーマンを集めた「関係人口サミット」を開催します。道後温泉の長期的な付加価値づくりを考える上で、地域と多様に関わる人々の存在は欠かせないものとなってきます。関心をもって関わってくれる外部者と相互に成長していくような、ひらかれた地域であることを広く知っていただくため、そのシンボル事業として行います。また、関係人口におけるリーディングメディアであるSDGsマガジン「ソトコト」とも連携します。

## ● ボディケアツーリズム実証実験

【展開期間】 2021年11月中旬~2022年1月（予定）

人体の測定データを基にした科学的な「佇まい研究」を続けるワコール人間科学研究所との共同で、道後温泉独自のコーチングメソッドを開発し、付加価値の高い新たな観光商品として、湯治体験を作るプロジェクトです。2021年度は参加者約10名が商品開発に向けた実証実験を実施し、道後温泉旅館協同組合と連携しながら商品開発などを行います。

【公式ホームページ】 <https://dogoosenart.com>

※新型コロナウイルス感染症の状況により、プログラム内容が変更になる場合があります。

## 【本件に関するお問い合わせ】

未来へつなぐ道後まちづくり実行委員会事務局（松山市道後温泉事務所内）

担当：菅、越智、徳岡、岡田

TEL：089-921-6464 / FAX：089-934-3415 / MAIL：dogojimu@city.matsuyama.ehime.jp

## 【広報窓口】

株式会社NINO 担当：清水

TEL：089-995-8783 / 080-6280-6970（問い合わせ時間：10:00-18:00/土・日曜・祝日以外） / MAIL：press@dogoosenart.com